

「Happy Halloween!!」上岡

秋になるとあちらこちらで見かける、かぼちゃのオバケが印象的なハロウィン🎃
今ではすっかり日本のイベントの一つに浸透し、クリスマスの次に経済効果がある
そうです。先週末に大阪市内へ行ったのですが、リアルな仮装をした大人の方から、
可愛いキャラクターの仮装をした子供まで沢山見かけ、いつにも増して街が賑やか
に感じました。最近では社内で仮装して仕事をしたり、社内でイベントを行う企業も増えているそうです。
ただ流行に乗っているわけではなく、社内の空気が活性化したり、普段あまり関わりのない従業員同士で交
流が生まれたり、会社の基盤となる従業員同士の絆を深める目的だったりするのでしょうか。来年は社内イ
ベントで導入してみてもいいでしょうか？私は…恥ずかしいので遠慮させていただきます^-^；



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【マクロ経済スライド】

人口減少や平均余命の伸びといった社会情勢に合わせて年金の給付水準を調整する仕組みのこと。2004年の年金制度改革によって導入された。少子高齢化が急速に進む中、現役世代の保険料負担が重くなりすぎないように年金給付額を抑制するのが目的だが、物価が下落しているデフレ環境下では使わないルールがあるため年金の給付抑制は遅れている。デフレが解消された際に過去の凍結分を実施する制度の導入が決まっている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【則天去私（そくてんきょし）「夏目漱石」】

日本近代文学の礎を築いた夏目漱石は1867年に東京で生まれました。二度にわたり里子に出されるなどつらい幼少期を過ごすものの、成績は優秀で



現在の東京大学に進学します。卒業時に教師の声がいくつもかかりますが、当の本人は教職には前向きではなく、自分の本領に悩みながら愛媛県の松山や熊本の学校に勤めました。転機となったのは37歳。若き頃より親交が深かった正岡子規の弟子・高浜虚子のすすめで初小説『吾輩は猫である』

を著します。猫が人間を観察するという新しさが大きな反響を呼び、漱石は創作に喜びを見出したのでした。39歳で『坊つちやん』を発表すると40歳で勤めていた大学を辞し、朝日新聞社に入社して職業作家として生きる道を選びます。大学の職に見切りを付けて当時は社会的地位が低かった新聞社に入った背景には、権威的で窮屈な大学への不満があったようです。陰気な性格という印象がある漱石ですが、実際は思慮深く周囲の人を敬う人柄だったようで、漱石のもとには和辻哲郎や芥川龍之介といった才能豊かな門下生が集いました。判断や行動の基準を自己に置いて自分を大切にするという「自己本位」と、天にのっとり私心を捨てるという「則天去私」。漱石を代表する2つの言葉は相反するようですが、作品を通じて自分の人生に照らしてみると、新たな発見があるかもしれません。

今を生きる

先人の言葉

今日という日は、
残りの人生の
最初の日である

アメリカの薬物中毒患者救済機関「シナノン」の設立者であるチャールズ・ディードリッヒの言葉。過去を思い悩んでも仕方ない。いま、ここからがスタートだ。

トレンドを斬る!

ピアスが主流だった耳元のおしゃれに変化の兆しです。人気は耳たぶより上にクリップのように引っ掛けるタイプの「イヤ-

カフ」。穴を開ける必要がなく、付ける位置は自由で、重ね付けのアレンジも楽しめます。ピアス穴を開けないノンホール派が女性を中心に広がり、イヤリングを豊富にそろえる店が急増中だとか。体に負担をかけないストレスフリーのファッションが好まれる昨今、ピアスは唯一の選択肢ではなくなっています。耳元にも多様化の波が押し寄せています。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【商売の主導権はどこにある?】

「人生でいちばん無駄なこと」は何だと思えますか。「〇〇すること」の〇〇を考えてみてください。ある人は「執着すること」だと答えました。「競争すること」と言った人もいます。どちらも一理あると思いますが、心理学的にいう「人生でいちばん無駄なこと」は「比較すること」だそうです。実際、私たちは何かにつけて比較しています。人の持ち物と自分の持ち物。人の意見と自分の意見。人の幸せと自分の幸せ。つまり「他人」と「自分」を比べているわけです。なぜ比較することが無駄なのか。

それは、他人と自分を比較すると自分の感情が揺れるからです。何かを比較するとき、私たちは無意識のうちに優劣をつけています。それだけでなく、自分が決めた優劣で安心したり落ち込んだりします。けれど、比べる相手が代われば安心が心配になったり、今まで良いと思っていたことが揺らいだりするのは皆さんも体験的にご存じでしょう。つまり、他人と比べて手に入れた(と思っている)安心や成功や幸せは、とても不安定なのです。



商売において不安定な要素はできるだけなくしたいと思っているのに、そう考えている自分自身がいちばん不安定な要素だというのは皮肉なものです。周りに気を取られ、他人を気にしすぎている状況は、主導権を他人に渡しているのと同じことです。商売に集中しているつもり



が、実は大事な商売の主導権を他人に渡しているとしたらどうでしょう。禅の教えに「明珠在掌(みょうじゅたなごころにあり)」という言葉があります。「明珠」とは光り輝いている玉のこと。計り知れないほど価値がある宝物のたとえです。

「在掌」とは「その手の中にある」ということ。つまり「かけがえのない宝物はすでにあなたの手の中にありますよ」という意味です。成功や幸せを考えると、私たちはつい「他人の手の中」を見てしまいがちです。でも、無駄な時間を過ごしたく

なければ「自分の手の中」を見ることです。自分が本当にやりたいことは何か。それが周囲と調和していれば、商売はおのずと良い流れに乗っていくのではないのでしょうか。

トナリの

本棚

読みたいことを、
書けばいい。

【読みたいことを、
書けばいい。】

広告代理店のコピーライターであった著者の「書くこと」をテーマにした本です。「どうしても書きたい!」という強い動機のない文章は誰も読まない。「読ませる文章」を書きたい人には目からウロコの一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております☺☺☺☺☺☺